

# Purposeと「Our Philosophy」浸透活動

**Purpose** 私たちが社会で活動する理由、存在意義であり、あらゆる意思決定・行動の起点です

私たちの「Purpose」は、自分たちの「強み」や「情熱」とお客様や社会からの「ニーズ」を反映しています。ここでは、私たちのPurposeについて、詳しく紹介します。

## 未来をひらく イノベーション で 最高の安心とヨロコビをつくる。

「空気入りタイヤ」を世界で初めて実用化したことが、「自動車の時代」を世界で一気に花開かせたように。生み出した「世界初」が、次の時代を切り開き、そのありようまで変えてしまう力があることを表しています。

この「イノベーション」には「発想力」と「技術力」の二つの意味が込められています。これまで住友ゴムが取り組んできた技術革新の「両輪」とも言える、誇るべき二つの「先進性」です。

「安心」には二つの側面があります。一つ目は、製品の高い安全性による「安心」の提供。もう一つは、「住友ゴムの製品やサービスであれば、間違いない」という、高い信頼性と品質に支えられたお客様の「安心感」です。常に高い技術力や「期待を超える価値」を目指し、お客様からの「信頼」を生み出していく決意を表現しています。

「ヨロコビ」は、あえてカタカナで表記しています。タイヤ事業では、安心してドライブを楽しめる「うれしさ」。スポーツ事業では、いいプレーができたときの「達成感」や、ゲームに勝ったときの「感動」。産業品事業では、医療やインフラ分野などの製品に囲まれ、快適に暮らせる「満足感」など。カタカナの「ヨロコビ」は、こうした奥行きとともに、すべての事業が「ヨロコビ」あふれる健やかで豊かな社会の創造に、これからも貢献していくことを表現しています。  
※ 本ページ下部の写真は今の仕事を通じて実現したい最高のヨロコビを聞いたものです。

### 「Our Philosophy」浸透活動と進捗

当社は「Our Philosophy」を2020年に策定してから、全社を挙げて従業員への浸透活動を進めてきました。浸透にあたっては、「Our Philosophy」の浸透度を「認知」「理解」「共感」「実践」の4つのフェーズに分け、管理部門、工場の技能系、海外拠点、国内関連会社など、それぞれの状況にあった形で施策を進めています。

#### ■自分事化するためのワークショップ

管理部門・開発部門の一般社員から管理職、工場の職長クラス以上には、2021年度から年1回、フェーズごとに段階を追って理解してもらえるようオンラインセミナーを実施。「Our Philosophy」をより身近なものとしてとらえるため、自身で考えることを軸とした少人数のワークショップも交えながら行いました。

その他の部門・拠点では、以下のような施策を行いました。

- 2021年～：海外拠点の幹部に対し、ワークショップを実施。各地で自走できるようにフォローアップを行う。
- 2022年～：国内工場の技能系従業員向けに対面でのセミナー・ワークショップを全工場で実施。国内関係会社社員に対してワークショップを順次実施。

#### ■浸透度は「共感」フェーズへ移行中(2022年5～6月時点)

社内への浸透度を可視化するため従業員に対して、年1回「Our Philosophy浸透度調査」を行っています。2022年は5月から6月にかけて実施し、国内従業員の約7,700人が回答。2021年の「理解」のフェーズから、2022年は「共感」のフェーズへ移行しつつある状況です。

#### ■ウェブ社内報を活用した浸透活動(2020年11月開始)

浸透活動にはウェブ社内報も活用。役員・工場長のインタビューや部門での浸透活動事例を随時公開するとともに、浸透度調査の結果も開示し、意識付けを行っています。

目標値：

浸透段階  
フェーズ3  
「共感」の  
従業員割合

— 2030年 —

80%

※ 従業員に対する「Our Philosophy浸透度調査」で到達度を測定

#### 2021年度～

「Our Philosophy」を知る  
「Our Philosophy」の全体像、導入の背景や策定のポイントについて共有。

#### 2020年

「Our Philosophy」策定

Phase 2  
理解

Phase 1  
認知

#### 2023年度～

「Our Philosophy」体現に向けた、さまざまな取り組み  
「Our Philosophy」体現に向け、個人・組織・会社を成長させるための共通テーマを学ぶ。2023年度はD&Iをテーマに実施。

#### 2022年度～

「Our Philosophy」の自分事化

自身や自部署組織の「安心・ヨロコビ・イノベーション」「多様な力をひとつにするための課題」「WAYの実践」について考察。

Phase 4  
実践

Phase 3  
共感

目指す浸透段階

